

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成19年度 第2回 川西市青少年問題協議会		
事務局 (担当課)	生涯学習部 生涯学習推進室 内線(3441)		
開催日時	平成19年12月13日(木)午後13時~午後14時30分		
開催場所	市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	大塩民生、松榮徹、村木修、上馬勇、友楽賢一、武村雅樹、松尾幸恵、今北道彦、荒木健作、秋田修一、高木佳子、澁野敏彦、齋田全代、宮路尊士、稲垣明、長船幸夫、佐伯直樹、古谷茂樹	
	事務局	生涯学習部長中本敏 同推進室長玉邑一夫 地域教育課長吉田薫 主査 羽瀬克彦、平瀬史明	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、 その理由			
会議次第	1. 開会 2. 委員の委嘱 3. 会長あいさつ 4. 協議事項 (1) 副会長の選出について (2) 「青少年の表彰」被表彰者について (3) 平成20年川西市PTCA青少年フォーラムについて 5. 意見交換 6. その他 7. 閉会		
会議結果	4. 協議事項 (1) 互選により決定 (2) 選考委員会(案)で了承 (3) 実行委員会(案)で了承 5. 意見交換 青少年の社会的自立にむけた取り組みについて		

1. 開会(13:00)

2. 委員の委嘱について

川西市議会 文教公企常任委員長 上馬勇 様
川西市教育委員長 松榮徹 様

新委員あいさつ

3. 会長あいさつ(大塩 民生 市長)

4. 協議事項

協議事項(1) 副会長の選出について

(会長) 協議事項(1)「副会長の選出について」ですが、川西市青少年問題協議会規則第2条第3項に基づき副会長を委員の互選により選出していきたいと思いますが、いかがいたしましょう。

(教育長) 事務局の案はありますか

(事務局) 前副会長であられました三村教育委員長の後任の松榮教育委員長にお願いいたしたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員) 異議なし

(会長) 松榮委員長よろしいですか

(委員) はい。

(会長) それでは、よろしく申し上げます。決定とします。

協議事項(2) 「青少年の表彰」被表彰者の推薦について

<事務局説明> 被表彰候補者の説明と、推薦理由の紹介

(会長) それぞれの被表彰候補者、団体について、質問・ご意見はありませんか。

(事務局) 趣旨に添った5団体1個人の推薦を表彰ということです。

(事務局) 推薦をいただいた推薦団体の説明も得ています。また、活動自体が推薦主旨となっている団体には、あらかじめ連絡をして辞退とすることを確認しております。

(会長) 無ければ今回は5団体1個人を表彰ということでよろしいか。

(委員) 異議なし

協議事項(3) 平成20年 川西市PTCA青少年フォーラムについて

<フォーラム実行委員長 秋田修一 委員 提案>

・実行委員会の経緯について

過去の出演者、その紹介者を中心に5名の実行委員を選出、高校生中心の実行委員

・おとな代表7名 青少年問題協議会、PTA連合会、青少年団体連絡協議会関係

・テーマについて

「未来を夢見て！」

・内容について

今年度は、PTA連合会との共催というかたちで親とゲスト（関純子さん）も交えて、青少年が未来の自分のあり方、社会のあり方を見つめていくことを核に議論を展開しようと考えています。

第1部は被表彰者の声を発表形式ではなく、インタビュー形式で紹介します。

第2部は、昨年と同様、おとな（実行委員会を中心とした）と青少年（青少年実行委員を中心とした）とおとな代表のパネルディスカッション形式です。また、前半は講演会形式で行います。

第3部は、子ども議会の継続活動議員、目的意識を持って活動する団体の舞台発表を中心としたステージを企画します。

総合司会

今年度はPTA連合会副会長（実行委員）1名に依頼しました。

第1部 PTCA広報誌コンクール・青少年の表彰

PTCA広報誌コンクール優秀賞等発表と表彰及び、ステージで今年度も青少年・団体を表彰することから、会長からの授与のあと、その場で簡単なインタビューを実施します。

第2部 青少年とおとなによるパネルディスカッション

タイトル「未来を夢見て！」

- ・関純子さんの講演「お母さんが太陽であるために」
- ・青少年代表5名とおとな代表7名のパネルディスカッション形式。関純子さんの司会により会場の意見も交えての進行予定です。

意見交換（討論）をし、会場参加者それぞれに考える機会を提供します。

第3部 青少年の舞台発表

4団体を考えています。今回も子ども議会継続議員の意見発表も行う予定です。

- ・子ども議会継続活動議員による意見発表
- ・牧の台ジュニアコーラスによる演技
- ・兵庫県立川西明峰高校ダンスクラブによる演技
- ・宝塚スポーツバトンクラブ

以上、細かいところについては、これからの実行委員会で決定していきます。

会場設営について

PTAと共に、実行委員で役割分担し、準備をしていく。

配布物について

- ・プログラム（日程、第3部演奏者紹介、青少年の表彰者紹介、推進団体の紹介）
- ・アンケート（ロビーにアンケート記入所の設置）
- ・推進団体等の啓発チラシ、ポスター（実行委員のデザイン）
- ・PRについて：大会ビラ・ポスターを幼小中高養護学校に配布。
広報掲示板、CATV文字放送、広報紙等。

(会長) フォーラムについての意見・質問はありませんか。

(委員) 青少年の実行委員は、昨年度同じ学校で偏りがあったようですがその辺りはいかがでしょうか。

(事務局) それぞれの高校に依頼して、協力を得ていますが、時期が進路選択時期と重なるため、なかなか参加していただけないのが現状です。ただ、今回も5名の方に快諾を得ております。

(会長) それでは、他に無いようですので、これまでの方向で進めていきます。

委員了承

5. 意見交流

(会長) それでは、5の意見交換に入りたいと思います。事務局の方から提案お願いします。

<事務局報告 「青少年の社会的自立にむけた取り組みについて」>

第1回青少年問題協議会からの流れを事務局の吉田課長が説明。

(吉田課長 資料をもとに)

- ・家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培う
- ・すべての青少年に体験活動を根付かせ、体験を通じた試行錯誤切磋琢磨を見守る。
- ・社会との関係の中で自己実現を図れるように地域の大人が導く
- ・一人ひとりに寄り添いその成長を支援する
- ・情報メディアの急速な普及に伴う課題へ大人の責任として対応する

以上、ご意見・ご質問はありませんか。

(会長)

いかがでしょうか。それぞれの立場でご意見をいただきたいと思います。

(委員)

今子育てを終えた世代の人を抱えている団体として、地域に何か貢献しないと、子どもたちがどう思っているのかわからない、学校評議員をしておりまして、先日給食を食べました。本当に今の給食はおいしいと感じたんですが、それと子どもたちの姿に、また孫の姿というか一般の子どものことがわからないので、声かけ運動を交流としてしようと、中学校がかけているのでしようと、こちらから声をかけたらちゃんと声をかけてくれるんですね、大人がやっぱり自分たちから声をかけていく。それもやっぱり照れくさいですが、何回もやってなれていく。それを地域の貢献としてやっていくことが大切です。

(委員)

挨拶運動は基本的なことですが、最近は何かがかけていると思います。

(委員)

やはり今防犯的なことばかりが主になって、情緒的なことが今欠けていると思います。楽しいということが人生には必要だと思います。いつもしかめっ面というのではなくて、笑顔で「おはよう」と言い合えるような地域になったらいいなと思います。

(会長)

挨拶運動は高校ではどうなのでしょう、稲垣校長なにか高校の青少年についてご意見ございませんか。

(委員)

特に本校では今年4月から全校集会で話していることです。4月よりは、挨拶をよくします。だから、生徒にはいろんなかたちでうたえるのは大事だともうし、効果を挙げるものと思っています。

(委員)

小学校の立ち番をしていると、横を緑高の生徒が通っていくんですが、きちんところらが挨拶すると、挨拶が返ってきます。

(会長)

保護司会としてご活躍いただいているところですが、何かご意見ございますか。

(委員)

小学校でも中学校でもそうですが、我々、日頃商売などして学校へ行き、子どもに会うと結構みんな子どもが挨拶をするようになりました。以前は知らん顔だったんですが、このごろは本当に挨拶をするようになりました。挨拶運動はよく出来てきたのかなと思います。最近の新聞などにあるように子どもが親を、親が子どもを、また親族どうしでの殺し合い。こういうのが本当に多く、ぎくしゃくしている環境があるように思います。これはやはり地域で声かけの頻度が高くなればなるほど、そういうことが少ないのではないかなと思います、だから声かけ運動をおおいに進めてもらえば、明るい社会が出来るといふう思います。今の状況を見てみると、ぎくしゃくした環境が社会に充満しているような気がします。これには声をかけるのが効果的ではないかなと思っています。なかなか他の家庭に首をつっこんでいくことはできませんが、外で声かけなどをして、いろんな形で話をする場が設けられたら、少しでも良くなるのではないかなと思います。今の子どもたちもそうですが、出会ったらどちらも声を掛け合う。これは、やはり一番いいのではないかなと思います。学校の子どもたち等も声かけを進めると同時に、大人も声かけの社会にしていくというのが一つの方法ではないかなと思います。

(会長)

青少年補導委員としての意見をお願いします。

(委員)

今お話がありましたように声かけということは、人と人とのつながりという部分でとても大事だということだと思います。大人がかわれば子どもたちもかわるといふうに思います。最優秀賞の標語というのがあって、その標語が「話そうよネットじゃなくてそばの友」で優秀賞が「メールより自分の言葉で話そうよ」というのが、兵庫県がかわればという思いでこの標語に決定しました。これを見ていても時代がどんどんかわってきていて、やはり、人と人とが顔を見て話をするとか、電話でも昔は一家に一つ

しかなく、家族の様子とかもわかりましたが、今はそれぞれが携帯を持ち、メールとかをしていて親であっても子どもの様子がわかりにくいと言うことが状況となってきました。それで青少年補導委員として、各地区からあがってきているのが、非行防止ということで、黄色のジャンパーとかもいろいろ用意していただいて廻っています。一番の目的は、挨拶運動のお話がありましたが、やはり子どもと接することです。何でもいいから子どもと話をする。私たちも子育てを終わりましたので、今、小学校や中学校・高等学校と、お子さんをお持ちの方と意見を交えながら、やはり小さい頃から子どもを見ていたら少し悪いことをしていても、全然知らないというのではなく、それを抑止して歩いている。それだけで変わってきていますので、これからも補導委員として抑止と見守りと、また一人の人間として話し合っていけるように、つとめていきたいと思っています。何かを指導するというのではなくて、やはり悪い道に行ってもらっては困りますし、横道にそれないように犯罪になってしまったら大変ですから、そこまでいかないように次にまた大きく変わって頂けたらなという思いで補導をしています。やはり会話とか小さなことから積み重ねていきたいと思っています。

（会長）

子どもは当然反発心があって逆はないとまた大変だと思うのですが、親孝行したいときには親はなしといいますが、そこへ行き着くまでがなかなか大変で挨拶運動というのは本当に原点だと思います。今日は警察の方もお見えですが、立場は違いますけれども最近の川西市内の状況はどうなのか、教えていただけたらありがたいです。

（委員）

私の課では、事件や事故とか虐待・家出などを中心に取り扱っています。最近全体の状況は、年末前に殺人事件など悪質な事件が発生しております。また、少年事件のほうも、現在150件ほど検察、家裁のほうに送致するという、事件として処理しております。今年の特徴は逮捕が増えています。今年は41名を逮捕しています。去年に比べて19件ほど増えているような状況で、出店荒らしだとか店に入ってものを盗むとか、暴行・傷害事件などが大半です。年末を迎えて署として年末警戒等でも青少年の補導には力を入れたいなと思いますので、ご協力お願いします。

（会長）

私たちの町でもいろいろと事例が出てきています。少し心配していますが、そういうなかで学校教諭と保護者との間のいろんな行き違いがあるというようなことをよく聞きますが、PTAのほうから保護者としてのご意見ありますか。

（委員）

2年前に議論した内容で、PTAに参加したい問題家庭の指導の仕方というのがここにあります。PTAとしては広報紙であったり、一人一役運動であったりと保護者同士の繋がりをつくっていきましょうということをやっています。去年、教育基本法の改正にあたって、教育委員会とPTAとで意見交換をさせていただきました。教育基本法の改正の中で家庭と地域との連携ということがうたわれています。そういう

中でどういうふうにしていきましょうかという話し合いをさせていただきました。提案の2つ目にあがっている、青少年育成市民会議がからんでいるのですが、小学校ではコミュニティがあって、確実に地域の中で育って行くことができますが、中学校というのは小学校の集合体であって、定まった自治会やコミュニティはないです。どの人と関わって地域にとけ込んでいくかというのは、大変難しいと思います。保護者同士が連携しないと、今小学校から中学校に上がる時の生徒数を見ると、公立中学校に対する危機感であったり、いろんな噂がながれたりもあります。そういったことで、進路が妨げられている。そういったことがあるので、もう少ししっかりした情報交換をしたり、いろんな形でのアドバイスをしたりしていく。そういった機会をつくっていきましょうということで集中的に教育委員会でやってほしいという要請を私ほうけて、小中連盟の話し合いを中学校区をもとにして行っていきましょう、その話し合いをしたものをまた教育委員会にかえしましょうと、少し時間はかかりますが、一つテーマをもうけながら同じテーマを教育委員会とPTAとがそれぞれ話し合っ、意見交換をして一つずつ積み上げていきましょうというふうに今やっとなってきました。これから本当に関わりを増やしていかないといけません。なかなか本当に核家族化してきて今の保護者を指導する人がいないですね。核家族化というのは、本当に大きな社会問題なのではないかと思います。いろんなところでの関わりを増やそうということを、ちょうど今始めだしたところです。

(委員)

保護者の連携は必要だと思います。確かにそういった問題で、いろんなことを提起しているのかもしれませんが。一週間ほど前に、各新聞の市場をにぎわせた記事があります。皆さんもそれぞれに批評されていることと思います。その記事は学校側にいきすぎがあったということ、ずいぶんと取り上げられたものです。あれは、私の個人的意見ですが、3～4年前になります。学校へ髪を染めてきた子を黒く染め直してあげようとしたときに、かぶれをおこしたという事実があります。そういうことに基づいて、そういったことを学校ではしないでおこうかという通達がありました。それについて、いきすぎであったのではないかという影もありました。私が思うには人権も大事ですが、例えば今の例もそうですが、やはりまだまだ子どもたちが成長していく中で髪を染めるとか、ピアスをあけるとか、喫煙もあるかもしれません。そういった影響は子どもたちにとって良くない、そういったことはしてはならないということに基づいて校則に禁止をしている。それをさておいてこういう形で出てしまいましたが、やはり教育として両方を守るしつけをするのが学校教育であるということが大前提であると私は思います。教育委員会もそういう風に思っていると思います。ただ表現がこういった風になったわけですが、やはり子どもの教育はしっかりとしていけないといけない大前提であり、ルールを守るとはとても大事なことです。例えば交通ルールを守らずに、車にはねられて死亡事故につながるということもあります。やはりルールはとても大事なことです。その辺の観点が我々も青少年

を育てていく中では必要なことであると、社会ルールを教えることは必要なことだと認識してこの青少年問題を共に取り組んでいかなければならないと思います。

(会長)

学校現場では、そうはいうものの、なかなか大変だとも思います。どうでしょうか。

(委員)

私は生徒指導も結構してきましたが、やはり茶髪は非行文化ですから、それを許したら絶対その子のためにならないと思います。このたびのことは5年前に出た通達が5年という月日がたったものの、私どもの現場で徹底できなかったというかたちで、本当に申し訳なく思っています。うちの学校では茶髪についても本当に厳しく指導しています。ただどうしても親の理解が得られないこともあります。一人の例外もなく確実にとは公立中学校ではできないという点は、ご理解いただきたいと思っています。ただ、先ほど申し上げたとおり、茶髪をやめさせることは少々黒染め剤で髪の毛が痛もうと、皮膚が痛もうとそれ以上に一生にとって大きな災いがあるという信念も持っています。ただなかなかそれは全ての社会で通用することではないので、そのところは慎重にバランス間隔をもって指導していきたいと思っています。

(会長)

たくさん子どもたちなどからメール等をいただいております。先生がんばれとゆうふうなメールがたくさんありますので、是非がんばっていただきたいなと思います。今日は体育協会会長もお見えいただいておりますが、私も体育祭だとかいろいろな大会に寄せていただいております。野球とかバレーボールとか、そういった所へ寄せていただくとはじょうに凜として入場式を行い、清く正しくやっている団体が多いです。それから体育協会として青少年の取り組みについて、大変難しいところですがきちんとやっていただいていると思います。何か元気をつける前向きなお話へもっていけたらと思うのですが。何かございませんか。

(委員)

見ていたら本当に楽しく健康でいろいろなクラブがあります。私は今市長がいわれましたが、やはりルールとマナーについてはお話しています。やはり今の茶髪の話にも似ていますが、高校の教育の中で剣道とかそういうものを必修科目にいれるというのをまえだおしにして、少し早めるというようなことを聞いています。それに期待をしています。やはりスポーツをするとすれば、やはり礼儀作法を一番はじめに教えられることですから、そこから良い方向に向かっていくと期待しています。

(会長)

確かに子どもだけでなく核家族化によって親も少しという意見も出ていましたが、まさしくスポーツの大会を見ますと親子そろってしっかりやられています。そういったこともどんどん導入することによりもっと明るい雰囲気になってくれればと思います。体育協会さんは大変ですが、青少年の健全育成のためにいろいろと大会を催して頂いてがんばっていただけたらと思います。社会教育の立場から何か意見ございませんか。

(委員)

本年度ですが社会教育委員の会としましては、テーマを「人と人でつながる場づくり」ということで、活動しています。昨年度のテーマは「人でつながる地域の輪」ということで、教育委員会に文章としてだささせていただきました。本年度も考えさせていただいたことを、教育委員会へ提出させていただきたいと思います。先ほど秋田委員の話のなかでもありました。家庭教育というのは社会教育のなかでも欠かせないテーマです。そのテーマにそって話を進めています。システムをつくっていこうと考えているのですが、システムをつくるのが本当に良いことなのかといろいろと考えが戻ってしまう、そういったものも持ちながら毎回会を進めております。実際のところは子どもたちや親たちが学ぶことはたくさんあるのではないかなと思っています。また一月には教育委員さんと毎年一度お話をさせてもらいながら、私のほうが教育委員さんのほうにご提案させていただくかたちで進めさせていただいています。

(会長)

青年会議所のほうから出席いただいておりますが、いろいろな青少年事業を展開していただいておりますが、いろいろな青少年事業を展開していただいておりますが、いろいろなお気づきになられている事項はありますか。

(委員)

本年度の青年会議所では、小学生を対象にキンボール大会を8月19日に総合体育館で開催しました。キンボールというスポーツ自体が日本に来てまだ10年ほどしかたっていないほとんどの方が知らないスポーツですが、このスポーツを通して親と子、子どもと地域のコミュニケーションをはかっていきたい、というところから開催をはじめました。野球とかサッカーとかとは違い新しいスポーツですから、一から子どもたちに説明をするところから始めました。小学校の教育関係の方々やスポーツクラブ21の指導員の方々にもご協力いただきまして、練習の場を設けていただきました。十数回にわたって各団体さんに指導しました。そのなかで新しいスポーツで全く知らないところから始まりますので、子ども同士の間でもああでもないこうでもないということをしてしながら、ルールを守っていこうということをしてしました。大会も今回川西だけでなく阪神北の地域全体で行いましたので、37チーム合計200名ぐらいの子どもが集まって行いました。大変盛り上がった大会になりました。これを機にコミュニケーションというところに重点においてやっていきたいと思っています。今年思ったことが、まず今年一年目ですが出てきてくれる子どもというのは、比較的活発な子です。ただ、本来はそこからあまり出てこない子どもたちも、なんとかキンボールというスポーツに興味をもってもらいたいなと思っています。また来年再来年と4年間をめどに継続してやっていこうと思っています。継続することによって子どもたちにスポーツのおもしろさがひろまって、コミュニケーションの輪が広まってくれたらと考えています。来年以降もコミュニケーションということを大切にしていこうと思っています。

(委員)

学校関係のほうの立場で申し上げます。やはり今の世相は皆さんもおっしゃっていると

おりひじょうに混沌としておりますので、ただ今の親とか成人の方を教育するのはなかなか難しいことですから、皆さん教育に期待を大きくもっておられると思います。これからの日本をよくするには教育の力が必要だと。これからはやはり家庭教育のご理解が乏しいので、学校で公共心とか道徳心というものは教えていけないことだと思っています。これは今までの先生方のお仕事の範囲を超えてきますが、お願いしなければならないことだと思っています。問題になっているのはやはり社会がこういった状況で仕事の範囲がせばまってきていると、ある程度の学力がある子には道がひらけても、それ以外の方は就職活動、その他働かれています方でも大変苦労されていると思います。それはなぜかというやはり学校の勉強について行けず、だんだん落ちこぼれていくケースと、親の愛情がなくてぐれてしまうケースと二つあると思っています。この点について先生方がもう少し配慮して子どもたちに取り組んでいただいて、学力のほうは、落ちこぼれていく子どもをもう少し手厚く、そのままいってしまうとどうしても小学校、中学校と勉強がわからずにおもしろくなくなっていく。そういう子を出さないようにもう少しサポートしながら、また教育委員会でもサポートしながらもう少し方法を考えていこうと思っています。そしたら地域の方々に子どもの安全、やはり事件が多いのでその点は地域の方々にお願いせざるを得ないと思っています。協力安全制度もできていますし、その他に地域の自治会の方々にも本当にありがたく思っております。この輪を広げていき継続的にそれぞれの地域を廻ってお願いしたいと思っております。補導委員の方も120名ほどいただいておりますが、これから年末にかけて大変かと思いますが、お願いしたいと思っております。

(委員)

補導ですが今まで二年前までは繁華街というものはなかったのですが、やはり繁華街へ子どもが出る時間帯ですとか、繁華街特別ルールといいまして、駅周辺とかを遅い時間帯にパトロールしていただくことをしています。

(会長)

いろいろ補導の仕方、話の仕方一つで子どもたちは反発してきますので、上手にいろいろな方法を使っているのもお聞きしています。今後もよろしく願います。

(会長)

青少年育成団体からの視点で何かありませんか。

(委員)

ボーイスカウトというのは社会性を養うためにあるんですが、ここにすごく期待して入ってこられる方、最近多いのはリーダの研修を私はしておりますが、ADHDなどスペルなどに抵抗のある子が多いです。おそらく学校教育の分野で網がかかっているのだと思います。社会性という面ではわかりませんが、行動力を見ると違いが出てきます。特に今の保護者は自分の子を見ても他の子を見てももらえないので、その辺の違いがわかっておられない方がひじょうに多いです。大きくなると芸術などいろいろ

な分野で活躍される場合もありますが、社会への適応をめざしていろいろと考えています。そういった知識をもう少し勉強しなければならないなという話をしています。やはり子どもたちの様子を見ていても、わりと多動的な傾向の子がそういう風になっているなと思います。今、時間的には夜間に社会時間が移っておりまして、スーパーでも12時までやっているところがありますが、2時まで開いてるレストランだとかそういうところで3才4才もしくは小学生くらいの子どもを連れて食事をしていることが珍しくなくなっています。僕ら仕事終わって小腹がすいたからレストランで食事をしようと思うと、そこで子どもを抱いた親がいるだとか、子どもがウロウロしている光景を見ることがあります。そういうのを見るとマナーにもくくられていないし、多動的要素が拡散しているように思います。今後いろいろな声かけをする人も、少しその辺も配慮もしていただいて、ルールを守って欲しいという部分が要求されて来るのではないかと考えています。

(会長)

いろいろな面からの見方があると思います。時間もかなり迫っておりまして、これだけはいつおきたいということはあると思いますか。なければこれをもって意見交換のほうを終わらせていただきます。次に事務局より連絡事項等ありますか。

6. 事務局より連絡

先ほどからのくり返しになりますが、来年1月19日の土曜日に青少年フォーラムがあります。こちらのほうもちらし等配らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。2点目ですが、第3回の問題協議会を2月の下旬に行いたいと思います。内容は青少年フォーラムの結果報告と反省また、各地区青少年育成市民会議との協議、来年度協議会の方向性等や取り組み等を行いたいと思いますのでよろしくお願いします。

7. 閉会(11:30)

会長より閉会挨拶。

これでプログラムを終わります。個人として、団体としての意見ありがとうございました。時代を担う子どもたちは大事な宝であろうかと思えます。市としましても、しっかり考えていきたいと思えます。これからもみなさんと連携して元気に笑顔溢れる市にしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。